



中央地区里親会平成 25 年度研修会が開催されました

先月のニュースレターでお知らせしていましたが、中央地区里親会の平成 25 年度研修会を 1 月 18 日 13 時から、札幌市南区真駒内にある保養センター駒岡で、総勢 50 名が参加して開催されました。

冒頭、里親会の太田会長と中央児童相談所の仁原所長から挨拶があり、続いて中央児童相談所の横堀主査（里親推進）が行政説明を行いました。主な内容は「子ども虐待による死亡事例の検証報告より」および旭川医大看護学科の伊藤幸子さんの講演「妊婦への育児支援」の紹介でした。平成 23 年度において心中以外の子どもの虐待死が 58 人で、うち 0 歳児の割合が 43%、さらに 0 歳児のうち 1 ヶ月齢に満たない子が 46% を占めているということと、その原因として望まない妊娠が 76% という数字に心が痛みました。子どもが欲しくて不妊治療を受ける夫婦が増えている一方で、生まれてすぐに失われる幼い生命が多い現実を直視し、その狭間を埋める何らかの手立てが必要であることを切実に感じます。



「子育てあれこれ」と題した講演を、臨床心理士でスクールカウンセラーもされている河岸由里子さんにさせていただきました。子どもは大人や周りの人のまねをして育つものであり、悪い行動も見本を真似ているだけ。子どもは日々変化し、言葉や行動の発達を楽しむことが子育ての楽しみ方。出来るだけ生活のリズムを保つことと、生活上のルールを守ること、大人がぶれないことが大切。これまで思春期は 8・9 歳～17・18 歳とされてきたが、現在はその期間がどんどん長くなっていると思われ、20 歳を超えても思春期にあると見られる人もいます。それは人生 60 年の時代と 80 年の時代の違いとも考えられ、身体的には成人となっても社会的・経済的には自立していない人が増えている。思春期の子どもとの関わりには信頼関係、話をする時と場

所の工夫、子どもの興味を知ることがポイントである等々、里親にとっても非常に役立つ実際的なお話を聞くことが出来ました。その後、個別の面談も受けていただき、数組の里親さんが相談をしていました。

17 時 30 分から始まった交流会では出席者全員の自己紹介の後、和気あいあいの雰囲気の中で里親同士、児童相談所の皆さん、里親支援専門相談員さん、そして道里連の会長と事務局長さんといった、普段なかなか話が出来ない人たちと親しく膝をつき合わせて話に花が咲きました。最後は、「YMCA」の身振りを交えた全員合唱でお開きとなりました。お忙しい中を講演していただいた河岸先生、支援をいただいた関係機関の皆様、そして幹事として事前の準備と当日のお世話をいただいた佐藤・見上里親さんと門前専門相談員さんに感謝いたします。



今日、お届けする資料は

- 「里親信条の見直しについて」 公益財団法人 全国里親会 あり方検討部会
- 月刊「里親だより」第 51 号 公益財団法人 全国里親会
- 「明日、ママがいない」の放送内容について 公益財団法人 全国里親会

あなたの笑顔が見たいから

中央地区里親会

**お願い：「里親信条・改定案」に対するご意見をお寄せください**

「里親信条」については、これまでも「内容に問題がある」、「時代にそぐわない」などのいろいろな意見があつて、全国里親大会の場でも論議がありました。そうした状況を背景に「里親信条」の見直しについてあり方検討部会で検討作業が進められてきて、このほど別紙に示す改定案が示されました。

今後2月末まで各都道府県の里親会を通じて里親からの意見を募り、3月または6月の全国里親会の理事会・評議員会で決定するスケジュールとなっております。

中央地区里親会に対しても、北海道里親会連合会（道里連）から改訂案に対する意見と提案が求められています。時間的に余裕がありませんが、2月18日までにご意見と提案を中央地区里親会事務局まで、郵便やeメールまたはファックスでお寄せください。

情報：TV放送「明日、ママがいない」に対する要請について

1月15日から日本テレビ系列で放映されている連続ドラマ「明日、ママがいない」の内容があまりにも問題点が多いため、全国児童養護施設協議会が放映中止を求めたほか、全国里親会も放映中止あるいは言葉の使い方についての慎重な配慮を要請しています。要請内容については別紙の資料をご覧ください。

また、親が育てられない子どもを匿名で受け入れる「こうのとりのゆりかご」（赤ちゃんポスト）を設置する熊本市の慈恵病院はこの連続ドラマについて、「養護施設の子どもや職員への誤解偏見を与え、人権侵害だ」として放送中止を申し入れるとともに、放送倫理・番組向上機構（BPO）の放送人権委員会へ放送内容の審理を申し立てています。現在までドラマは第3話まで放映されていますが、要請を受けた日本テレビは放映を中止する考えのないことを発表しています。

慈恵病院は放送中止を申し入れた理由について、さらに詳しい説明を同病院のホームページに掲載しています。その前半の部分を引用して紹介します。

**現在放送中の「明日、ママがいない」放送に当たりまして
はじめに**

日本テレビによる「明日、ママがいない」放送に当たりまして当院のお願いが一種の論争を引き起こす形となったにも関わらず、皆様に十分な情報が伝わりにくくなっていることに対し、深くお詫び申し上げます。

記者会見では、今回のお願いを申し上げる背景についてもご説明させていただきました。しかし、限られた紙面や放送時間では私たちの考えが十分に伝わらず、励ましのお言葉、お叱りのお言葉を頂く中で、誤解を招く状況が生じていることを心配しております。そこで、少しでもご理解いただければと、私たちの考えをホームページ上に掲載させて頂くことに致しました。

今、私たちが問題にしているのは一般家庭のお子さんだけではなく、児童養護施設へ入所する前に家庭で虐待を受けたお子さんの、傷ついた心のケアの問題です。虐待を受けた中には、トラウマ(心的外傷)の影響から脱却できないケースがあります。友達が冗談で投げかけた「ポスト」「ロッカー」「ドンキ」などの言葉も、虐待を受けた子どもの心には刃物のように突き刺さり、フラッシュバックの引き金になりかねません。

全国児童養護施設協議会は放送以前から内容を問題視し、12月に内容変更の申し入れをしていました。それにも関わらず第1回が放送され、実際に影響を受けたお子さんがいらっしゃいます。第2回の放送内容では過激な印象が薄れて少し安心しましたが、差別的なあだ名で呼び合い、施設のお子さんがペットショップの犬扱いされる部分につきましては変化がなく、残念な思いです。

ホームページでは当院の考え方のご説明、テレビ局とのやり取り、病院に頂きましたご質問へのご説明を掲載させていただきました。

どうぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。

聖粒会 慈恵病院
文責：産婦人科部長 蓮田健